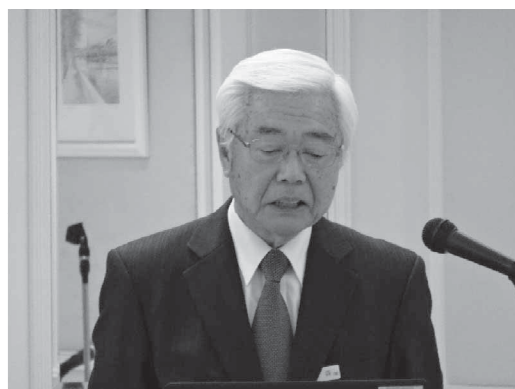


各学科・専攻学修状況の報告 (2) 住居学専攻の学修状況

○森 住居学専攻の森と申します。学修状況について PDCA の流れに沿って、ご説明します。



⑨: 計画 住居学専攻のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

建学の精神 『教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す』を教育目標

アドミッションポリシー

本学の教育目標を理解し、使いやすく安全かつ快適な建築・インテリアをデザインするための知識・技術を実践的に身につけ、建築・インテリアのスペシャリストとして社会に貢献したいという意欲のある人を求めます。

カリキュラムポリシー

住居学専攻では、使う人が満足できる建築・インテリアをデザインするための計画力、設計・作図能力、コミュニケーション能力、法規・構造・施工等に関する知識を実践的に育むために、以下のカリキュラムを編成しています。

1. 建築・インテリアをデザインするための基礎を学んだうえで、建築・インテリアの2コースでより実践的な課題に対応できる知識・技術を要請します。
2. 初年次から配当される演習、実習、集中講座等を通じて、実社会で貢献できる設計・作図能力、ITスキル、コミュニケーション能力を養成します。
3. 実際の建物等を企画・設計・施工する実習、国内外研修や各種行事を通じて実社会で必要な自主性、協調性、実行力、マナー等を養成します。
4. 初年次には、専門科目の履修に必要な高等学校までの基礎学力を補完するための科目を用意しています。
5. 実社会で必要な資格取得を支援する専門演習を用意しています。

ディプロマポリシー

所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定して学位を授与します。

1. 建築・インテリアに関する幅広知識・技術を修得し、それらを活用してデザインとしてまとめ、提案する能力を有している。
2. 建築・インテリアのデザインに必要なコミュニケーション能力と社会人に必要な基礎的素養を有している。
3. 使う人が満足できる建築・インテリアをデザインするために、常に新しい知識・技術の修得に努める強い意志を有している。

<住居スライド1 3ポリシー>

まず住居学専攻の「アドミッションポリシー」「カリキュラムポリシー」「ディプロマポリシー」についてご説明します。本学の建学の精神「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」を教育目標とし、アドミッションポリシー、本学の教育目標を理解し、使いやすく安全かつ快適な建築・インテリアをデザインするための知識・技術を実践的に身につけ、建築・インテリアのスペシャリストとして社会に貢献したいという意欲のある人を求めています。カリキュラムポリシーについては以下に示すとおりです。ディプロマポリシーについても以下に示すとおりです。

続きまして、各種のポリシーを受けまして、住居の教育方針を設定しております。

1. 育成する人物像。住居学の学びを活かし、社会貢献できる人材の育成。住む人の「満足する環境を創造できる」人材の育成としています。2. 卒業時の学習レベルとして、卒業時に2級建築士合格レベルの知識を有するとしています。

教育目標・目的については、以下に示すとおりでございます。

⑤:計画 住居学専攻の教育方針・教育目標・目的

教育方針

1. 育成する人物像 : 住居学の学びを活かし、社会貢献できる人材の育成。
:住む人の『満足する住環境を創造できる』人材の育成。

2. 卒業時の学修レベル:卒業時に二級建築士合格レベルの知識を有する。

↓

教育目標・目的

住環境に関する専門知識と技術を修得し、住環境の安全安心・快適性の確保、健康・環境問題等に幅広く対応できる実践力と感性を有した人材を育成し、社会に寄与することを目的とする。

<住居スライド2

教育方針・教育目標・目的>



<住居スライド3 コア・カリキュラム>

①②:計画・実施

住居学専攻の学修支援を中心とした年間行事予定と実施状況

月	行事	実施状況	備考
4月	・新入生歓迎会 ・春期休業中課題評価、課題テスト ・ガイダンス時に資格取得の指導 ・クラスアドバイザー面談(1回目) (・建設実践:「特別プロジェクト外実習」毎週木曜日に実施)	・4月24日(木)実施 ・評価、テスト実施(4/9~11) ・連休前実施	
5月	・宅地建物取引主任者資格取得講座開講(5月~10月)		
6月	・卒業研究課題提出 ・保育実習室竣工披露会	6月13日受領 6月23日(木)実施	カラーコーディネーター(2・3級)試験 色彩検定(2・3級)試験
7月	・夏期休業中の課題提示 ・卒業研究進捗度チェック	7月28日提示 7月31日実施	福祉住環境コーディネーター(2・3級)試験 2級建築士学科試験
8月	・基礎演習学外演習 ・インターシップ実施	・8月4日 ・8~9月に実施	
9月	・研修旅行 ・インテリアコーディネーター資格取得対策講座 ・建設現場見学会「岐阜市立中央図書館:みんなの森ぎふメディアアコスモス ・クラスアドバイザー面談(2回目) ・夏期休業中課題評価、課題テスト	・9月1・2日実施 ・9月17日 実施 ・評価、テスト実施(9/18~)	
10月	・卒業研究中間チェック	10月23日(木)実施	インテリアコーディネーター一次試験
11月	・インテリアコーディネーター2次試験対策講座	11月8・22日実施	キャッチャーベンチリスト試験 色彩検定(1・2・3級) インテリアコーディネーター二次試験
12月	・『住居学専攻のみの就職セミナー』開催 ・卒業研究提出	12月11日実施	
1月	・環境再生医初級講座	12月11日(木)実施	
2月	・卒業研究発表会&学外展示会 ・2級建築士受験対策講座 ・クラスアドバイザー面談(3回目) ・住設・インテリアショールーム見学会 ・春期休業中の課題提示	(予定)2月10日、2月21・22日 2月16日、2月24日 2月10日	2月25~27日
3月	・卒業制作外部組織への出品及び応募	予定2月~	近代建築社、建築学会等
備考	年間行事予定(表)は、年度毎のガイダンスで『住居学専攻・行事予定表』を配布・説明。		

<住居スライド4 年間行事予定と実施状況>

次に教育目標・教育方針を受けまして、コア・カリキュラム構成の設定と学習内容についてご説明申し上げます。住む人の満足する環境を創造できるスペシャリスト育成に向けて、「建築全般についての計画力」「建築関連法知識」「力学・構造についての知識」「施工・施工計画についての知識」、これらを統合したかたちの「設計・作図能力」としてコア・カリキュラムを形成します。それに加えて、社会に出て必要となります「コミュニケーション能力」で構成されています。それぞれの学習内容、科目は以下に示しております。

次に、住居学専攻の学修支援を中心とした行事予定と実施状況についてご説明します。4月、9月、2月に、学園の生活支援としてクラスアドバイザーによる面談を実施しております。7月と2月に長期休暇中の学修支援ということで、課題の提出とその対応をしております。

そして、資格取得支援としまして、5月から10月の間の宅建(宅地建物取引主任者資格)取得講座、9月と11月のインテリアコーディネーター資格取得対策講座、1月の環境再生医(初級)講座、2月に卒業年次の2級建築士取得を目指しまして、対策講座等をおこなっております。そして、就職支援ということで、12月に住居学専

攻のみの就職セミナーを開催しています。

その他、8月と9月の休業中を利用して、フィールドワークとして研修旅行、岐阜市立中央図書館の建設現場の見学会、2月に住宅設備のショールームの見学会等を計画しています。このように多様な教育の場を提供しております。ここに掲載した活動を実行しております。

続きまして、住居学専攻のコア・カリキュラムの評価・改善についてです。この画面ではちょっと見づらいですので、お手元資料をご覧くださいと思います。

活動の概要だけを説明します。メインのコア・カリキュラムがございませぬ。それの「計画」「実施」「評価」「評価結果」から「改善策」を作成しまして、次年度の計画に入れるということで、学修の質をPDCAを回すことによって高めるという行動をしました。

コア・カリキュラム科目	指導目標(学修目標)(P)	実施状況(D)	指導目標(学修目標)達成の評価(C)	改善策(A)
設計論・製図	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中規模RC造建築物(Q1とQ2)のトレスを行いRC造ラーが構造の基礎を学ぶ。 2. RCラーが構造を前提に課題を与え計画図を作成する。 3. CAD図による建築図の作成。 4. コンピュータ作成・表現能力の強化・向上。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長期休暇中課題としてRC造3階建てQ1とQ2(クォーター)のトレス(配置・平面・立面・断面)の設計図を行いRC造の基礎を学んだ。 2. 課題除本作家の記念館(RC・2階建て約300㎡)の計画図作成。 3. 同上計画書をCAD図として完成(配置・平面・立面・断面・仕上げ表・求積図)。 4. 学内コンパ(長寿健康推進センター)至員応募→予定外。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 100%達成(理解は不十分) 2. 100%達成(多少のラフな書き) 3. 100%達成 4. 90% 達成(未応募者) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. トレスでRC造の基礎を学ぶには随分感を感じる。来期は集中講義など併せて理解度を深めたい。 2. 2・3についてはほぼ良好。次年度継続。 4. 予定外の学内コンパで時間確保に苦労したが、学生の参加・応募の士気も高く良かった。(制約によって大変良い)
構造力学基礎 I	<p>学生の苦手分野の一つである構造力学系科目へのスムーズな導入を図るため、入学前学修支援と連携し、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の数学基礎力の把握 2. 必要な数学基礎力を定着 3. 数学基礎力が構造力学系科目履修とどのように関わっているかを理解させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度より全入学生に対する数学基礎力アッププログラムを実施 2. 学生個々の数学力に応じたリメディアル教育を実施 3. 構造力学初歩の課題を用いて、数学基礎力がどのように活用されるのかを説明 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全入学生対象のプレースメントテストを実施。全学的な中で住居学専攻の数学力が把握できるようになり、特に弱点となっている分野等も含めて学生の数学基礎力の把握ができた。 2. 小中高の学修経験から数学に対する拒否反応を示す学生があり、その学生には数学基礎力を定着させるまでには至っていない。 3. 構造力学系科目の単位を落とす学生は減っており、効果が上がっていると評価できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 2. については、いかに効果的なりリメディアル教育を展開するか引き続きその方法論の構築に努める必要がある。また、平成26年度から全学1年次で実教学の基礎教育(SPI対策) 3. が実施されているが、教育の趣旨と内容が一貫している部分が少ない。どのように連携を図って検討を進めたい。
CAD演習 I	<ol style="list-style-type: none"> 1. 汎用CADであるJW cadを使って2次元CADの基本操作技術を修得する。 2. 基礎製図(手書き製図)で学んだ製図規格、製図の描き方を復習。 3. 木造平屋建住宅の図面の描き方、木構造、材料名の理解。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マウスの使い方、コマンドの基本操作などを単純な図形を描きながら学ぶ。 2. 3. 木造平屋建住宅の各面図(配置図、平面図、断面図、立面図)について図面の描き方、納まり、材料名などの説明を行い、トレスを実施。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. JW cadの基本操作は、各面図のトレス作成時に繰り返して行い、修得は達成されている。 2. 最初の平面図のトレスに時間をとり、描き方の手順を理解した。 3. 断面、立面図に関しては、正確に描く事が出来るようになった。また、作図に組むわね構造や材料名についての理解は十分と言えない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 続くCAD演習 II で、より多くのコマンド操作を修得し、作図のスピードアップを図る。 2. 断面、立面図に関しては様型、写真、映像などを用いて、立体をイメージさせ理解を深める。また、構造や材料名に関する理解は、2年次以降の授業とも連携し、丁寧な説明をおこなっていく。
建築法規	<p>建築設計に必要な不可欠な知識として、以下の学修目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築単体に関する法的理解 2. 建築をとりまく周辺環境の法的理解 3. 高齢者・障害者などの建築的配慮の理解 4. 設計に関わる者の職責や義務に関する理解 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単体規定(一般構造・遊歩など)の説明 2. 集団規定(道路・用途制限・形成制限など)の説明、および関連する都市計画を解説 3. パリヤーフリー新法に関する設計上の寸法規定を中心として解説 4. 建築士法における設計・監理概要説明 	<p>各講義には、練習問題・小テストを実施し、知識の確認を行った。その結果によれば、1と2に関しては学生の関心も高く、小テストの正答率良好であった。</p> <p>なおよび4に関しては、時間的余裕がなく小テストを実施できず、理解の評価が出来なかった。</p>	<p>練習問題は、自宅で解いてもいい、授業で説明するものもあるが(自宅学習を促す目的)実際には授業中に練習問題も小テストも解説するのには時間が足りず、3・4に時間的余裕をなくしてしまう。練習問題は丁寧に解説した解答冊子を配布し、解説時間を短縮する必要がある。</p>
建築施工(含積算)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「建築施工」を学ぶ目的意義の理解。 2. 木構造・鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造それぞれの構造体の基本知識の修得。基礎知識不足の鉄骨造の学びは前年度に引き継ぎ実施する。 3. 仕上げ工事の基礎知識の修得。 4. 現地・現物・現時点の情報提供を推進。 5. 2級建築士受験に関連付けして理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会で必要となる施工の専門知識について理解し、今後の専門学修への意欲を持つことが出来た。 2. 3. 木造、鉄筋コンクリート造についての基礎知識は修得できたが、鉄骨造については学修機会が少なくやや基礎知識不足。 4. ビジュアルな教材により理解を深めた。 5. 建築施工と専門演習を関連付けさせたことにより建築士受験知識が得られた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「特別プロジェクト実習」を実施することに引き続き、さらに理解を深める活動は今後も継続していく。とっつきにくい授業のため理解しにくい授業方法が、今後其必要か。 2・3. 春休みの課題として鉄骨構造の設計図トレスの実施と併せ、3年次の設計論・製図Vの設計演習でさらに理解が出来る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. トレスでRC造の基礎を学ぶには随分感を感じる。来期は集中講義など併せて理解度を深めたい。 2. 2・3についてはほぼ良好。次年度継続。 4. 予定外の学内コンパで時間確保に苦労したが、学生の参加・応募の士気も高く良かった。(制約によって大変良い)

PDCA

入学前・初年次教育・専門教育・資格取得・長期休暇学修課題の評価・改善

行動目標	指導目標(学修目標)(P)	実施状況(D)	達成の評価(C)	改善策(A)(次年度の活動)
入学前支援	構造力学を学ぶのに必要となる高校までの数学の基礎力の学修。フリーストテストを反映した授業の実施。	入学前テキストを活用し、AO・推薦入試の合格者を対象に4回程度実施	入学後の構造力学基礎Ⅰの学修に無理なく移行でき、教を苦手にした学生も履修単位を落とすことなく進級できた。	入学時のフリーストテストの結果を分析し、授業に反映していく。学生のアンケートを実施し、改善点があれば反映する。
初年次教育	住居学専攻での主たる学びであるインテリアデザイナーを中心とした学修支援。改善策の実施推進。	「初年次教育」テキストの改訂。長期休暇中に「初年次教育」テキストへの書き込み復習。結果の確認と理解度確認テストの実施。	インテリアデザイナー資格取得状況：26年度一次合格者5名、平成25年度合格者3名、24年度合格者4名の実績である。	インテリアデザイナー資格取得試験の出題傾向を分析し、次回テキスト改訂時に反映させる。当分は昨年改訂のテキストを継続活用する。
専門基礎	住居学を概観するための1年次の専門基礎の学修。26年度に改訂された専門基礎テキスト『住居学専攻 基礎演習Ⅰ・Ⅱ』の活用。	専門基礎テキスト『住居学専攻基礎演習Ⅰ・Ⅱ』を活用し、1年生前期「基礎演習Ⅰ」後期「基礎演習Ⅱ」において専任教員によるオムニバス形式で授業を実施。	教員の作成したテキストによる演習もあり、専門科目学修の動機付けに大いに効果を発揮している。演習テーマの学生要望等を反映させることも考慮する。	IT社会において必要とされるメール活用知識とマナー等の追加と部分的改訂。
資格取得ガイドブック	社会で必要とされる資格取得の支援。テキストの改訂を検討する。	長期休暇中の「資格取得ガイドブック」の活用実施。夏休みはインテリアデザイナー、春休みは二級建築士の受験対策	インテリアデザイナー資格取得状況は初年次の欄を参照。二級建築士は26年度7名、一級建築士は4名の実績である。	建築士、インテリアデザイナー試験の出題傾向を分析し、次回テキストの改訂に反映する。市販の対策・過去問題集も多く出版されており推薦書籍も案内していく。
長期休暇学修課題	専門基礎知識を中心とした長期休暇中の学修支援。課題の量を見直し実行。前期対応できなかった学生の休業中の個別指導等実施。	「初年次教育」テキスト活用による学修支援の実施。課題図書感想文。「資格取得ガイドブック」の活用実施。指定された課題の実施。	資格取得の実績向上。課題図書を読むことにより幅広い学びの新しい発見につながったとの感想文が多く見られた。課題対応のできない学生が若干名いた。	昨年度はオーバーフローした学生がいたため課題の量等見直し、実施したがやはり対応できない学生がいたため対応策が必要。

<住居スライド6 学修課題の評価・改善>

続きまして、初年次教育・専門教育・資格取得・長期休暇学修課題の評価につきましても、コア・カリキュラム評価・改善と同じく、計画を立て、実施、達成の評価、評価結果の改善策。改善策を次年度につなげるということで、同じくPDCAの輪を回して活動推進をしております。

続きまして、先ほど全体の話のほうで出ていましたが、基礎力のための年間履修計画表です。これは春休みと夏休みの休業中の学修支援ということで、横（行）に各学年を配置しました。縦（列）に夏休みと春休み、その関連科目、講座・研修等ということでまとめました。

一応、主な課題としまして、初年次教育テキストによる書き込み、課題図書の読書感想、発展的な図書の課題ということと、それに各学年次の指定課題ということなことで長期休暇中の学修支援をしております。



住居学専攻

平成26年度基礎力のための年間履修計画表

学年	使用テキスト類等	夏休み		春休み		試験	レポート	備考 (履修科目等)	講座・研修等	
		試験	日程	レポート 作成要領	日程					レポート 作成要領
1	初年次総合テキスト(補完授業用)	〇	9/19	テキストへの書き込み	4月上旬	〇	テキストへの書き込み	休外前期開講授業の総復習 基礎講座(資料・希望者のみ) 8/5,7,12,19,25,28,29,9/4,8,11,18	基礎講座Ⅰ学外研修(8/6)	
	1 「自らの関わり」の作成 不慮住宅・分譲マンション 広告の収集・整理		〇	方眼紙に1,100ワード 手書き	〇	〇	10件以上	休外前期開講授業の総復習 生活学総論(合製型) 設計論・製図Ⅰ～Ⅲ等 研修旅行(9/1～2) シヨールーム常見学芸(2月中旬)		
2	「日本人と住まい」(上田眞、岩波新書)		〇	感想文(A4で1枚)	〇	〇	感想文(A4で1枚)			
	2 「木造建築を見直す」(坂本功、岩波新書)	〇	9/19	テキストへの書き込み	4月上旬	〇	テキストへの書き込み	休外前期開講授業の総復習 設計論・製図Ⅲ等 設計論・製図Ⅳ・Ⅴ等 研修旅行(9/1～2) シヨールーム常見学芸(2月中旬)	基礎講座(資料・希望者のみ) 8/5,7,12,19,25,28,29,9/4,8,11,18	
3	「新・建築入門」(藤研吉、ちくま新書)		〇	感想文(A4で1枚)	〇	〇	感想文(A4で1枚)			
	3 「小さな建築」(藤研吉、ちくま新書)	〇	9/19	感想文(A4で1枚)	4月上旬	〇	感想文(A4で1枚)	夏休みはインテリコラーチャータ、番 休外は二級建築士の試験対策 3年生までに作成した設計論・ 製図課題作品のブラッシュアップ 研修先に合わせて選 研修旅行(9/1～2) シヨールーム常見学芸(2月中旬)	基礎講座(資料・希望者のみ) 8/5,7,12,19,25,28,29,9/4,8,11,18	
4	「新・建築入門」(藤研吉、ちくま新書)		〇	感想文(A4で1枚)	〇	〇	感想文(A4で1枚)			
	4 「小さな建築」(藤研吉、ちくま新書)	〇	9/19	感想文(A4で1枚)	2月下旬	〇	感想文(A4で1枚)	基礎講座(資料・希望者のみ) 8/5,7,12,19,25,28,29,9/4,8,11,18	基礎講座(資料・希望者のみ) 8/5,7,12,19,25,28,29,9/4,8,11,18	

学歴的読解図書(上記読解図書を読んだ上で、さらに学歴的な図書を読みたいと考える学生向けの図書)
 「小さな建築」(藤研吉、岩波新書)、「日本の近代建築(上下)」(藤森照信、岩波新書)、「人口減少社会の設計」(藤正徳、中公新書)、「コミュニティデザインの時代」(山崎亮、中公新書)、「コミュニティを問う」(広井良典、ちくま新書)

住居学専攻
 学修状況(2)

<住居スライド7 基礎力のための年間履修計画表>

④:実施 建設実践:特別プロジェクト活動概況
(コアカリキュラムをより深く理解する特色ある実習)

平成26年度 保育実習室建設
プロジェクト



平成25年度 大学トイレリニューアル
プロジェクト



平成21年度学生寮のインテリアコーディネート
プロジェクト



平成20年度 学生食堂リニューアル
プロジェクト



平成19年度 茅葺屋根の休憩所
プロジェクト



平成18年度 竹ビオトープ
プロジェクト



平成16年度 実習棟建設
プロジェクト



<住居スライド8 特別プロジェクト活動概況>

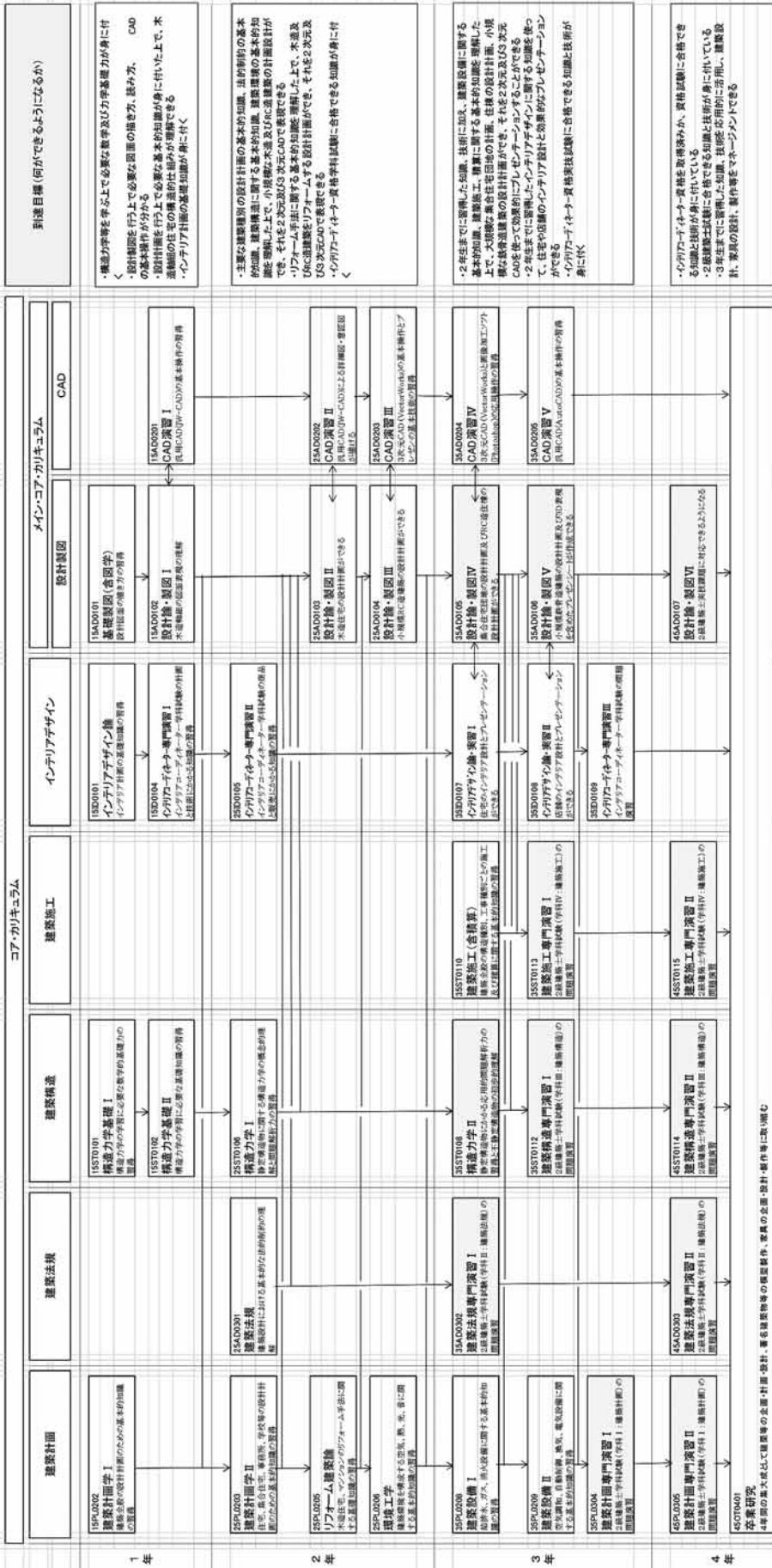
続きまして、これは住居学専攻の特徴のある活動です。コア・カリキュラムをより深く理解する特色ある実習として、平成16年から建設実践をおこなっております。その活動概況をご説明します。

平成26年、昨年6月に保育実習をするための保育実習室を建設しました。下にインナーのペースがございますが、これを竣工させました。平成25年度に大学トイレのリニューアル、平成21年度の学生寮のインテリアコーディネート、平成20年度の学生食堂のリニューアル、平成19年の茅葺屋根の休憩所、平成18年の竹ビオトーププロジェクトということで、最初に立ち上げました平成16年度の実習棟建設と、過去十数年において授業での学びをより理解を深めることと、コミュニケーション能力と社会に必要なスキルを継続的に学ぶということで、この活動を推進しております。

①・②:改善

住居学専攻のコアカリキュラムのフロー(平成27年度よりの予定)

住居学専攻のコア・カリキュラムのフロー(平成27年度よりの予定)



15PL0002 建築計画学Ⅰ 建築法規の設計計画のための基本的知識の習得
 15ST0101 構造力学基礎Ⅰ 構造力学の学習に必要な数学的基礎力の習得
 15SD0101 インテリアデザイン概論 インテリアデザインの基礎知識の習得
 15AD0101 基礎製図(各図学) 設計製図の書き方の習得
 25PL0001 建築計画学Ⅱ 住宅、集合住宅、商業施設、学校等の設計計画のための基本的知識の習得
 25ST0101 構造力学Ⅰ 構造力学の学習に必要な基礎知識の習得
 25SD0101 インテリアデザイン概論Ⅱ インテリアデザインの基礎知識の習得
 15AD0102 設計製図・製図Ⅰ 木造建築の設計製図の習得
 15AD0201 CAD演習Ⅰ 汎用CADソフト・CADの基本操作の習得
 25PL0002 建築法規 建築法規の設計計画における基本的な法的知識の習得
 25ST0102 構造力学Ⅱ 構造力学の学習に必要な基礎知識の習得
 25SD0102 インテリアデザイン概論Ⅲ インテリアデザインの基礎知識の習得
 15AD0103 設計製図・製図Ⅱ 木造住宅の設計製図ができる
 15AD0202 CAD演習Ⅱ 汎用CADソフト・CADによる建築図・断面図の作成
 35PL0001 建築計画学Ⅲ 住宅、集合住宅、商業施設、学校等の設計計画のための基本的知識の習得
 35ST0101 構造力学Ⅲ 構造力学の学習に必要な基礎知識の習得
 35SD0101 インテリアデザイン概論Ⅳ インテリアデザインの基礎知識の習得
 15AD0104 設計製図・製図Ⅲ 木造住宅以外の設計製図ができる
 15AD0203 CAD演習Ⅲ 汎用CADソフト・CADによる建築図・断面図の作成
 35PL0002 建築法規 建築法規の設計計画における基本的な法的知識の習得
 35ST0102 構造力学Ⅳ 構造力学の学習に必要な基礎知識の習得
 35SD0102 インテリアデザイン概論Ⅴ インテリアデザインの基礎知識の習得
 15AD0105 設計製図・製図Ⅳ 木造住宅以外の設計製図ができる
 15AD0204 CAD演習Ⅳ 汎用CADソフト・CADによる建築図・断面図の作成
 45PL0001 建築計画学Ⅳ 建築法規の設計計画における基本的な法的知識の習得
 45ST0101 構造力学Ⅴ 構造力学の学習に必要な基礎知識の習得
 45SD0101 インテリアデザイン概論Ⅵ インテリアデザインの基礎知識の習得
 15AD0106 設計製図・製図Ⅴ 木造住宅以外の設計製図ができる
 15AD0205 CAD演習Ⅴ 汎用CADソフト・CADによる建築図・断面図の作成
 45PL0002 建築法規 建築法規の設計計画における基本的な法的知識の習得
 45ST0102 構造力学Ⅵ 構造力学の学習に必要な基礎知識の習得
 45SD0102 インテリアデザイン概論Ⅶ インテリアデザインの基礎知識の習得
 15AD0107 設計製図・製図Ⅵ 木造住宅以外の設計製図ができる

到達目標(何ができるようにするか)

・構造力学等を学ぶ上で必要な数学及び力学基礎力が身に付く
 ・設計製図を行う上で必要な図面の描き方、読み方、CADの基本的な操作が分かる
 ・設計製図を行う上で必要な基本的知識が身に付いた上で、木造建築の設計計画の目的を達成させることができる
 ・インテリアデザインの基礎知識が身に付く

・主要な建築種類の設計計画の基本的知識、法的制約の基本的知識、建築構造に関する基本的知識、建築法規の基本的知識を習得した上で、小規模の木造及び木造建築の設計計画が、2次元平面に関する基本的知識を習得した上で、水廻り及び電気設備に関する設計計画ができ、それと2次元及び3次元での表現ができる
 ・インテリアデザイン・資格実技試験に合格できる知識が身に付く

・2年生までに習得した知識、技術に加え、建築法規に関する基本的知識、建築構造、建築施工、建築に関する基本的知識を習得した上で、大規模な集合住宅の設計計画、住居の設計計画、小規模な集合住宅の設計計画ができ、それと2次元及び3次元のCADを使って効率的にプレゼンテーションすることができる
 ・2年生までに習得したインテリアデザインに関する知識を使って、住宅や店舗のインテリア設計と効率的なプレゼンテーションができる
 ・インテリアデザイン・資格実技試験に合格できる知識と技術が身に付く

・インテリアデザイン・資格実技試験に合格できる知識と技術が身に付く
 ・2級建築士試験に合格できる知識と技術が身に付いている
 ・3年生までに習得した知識、技術と応用的に活用し、建築設計、客員の設計、製作およびマネージメントできる

<住居スライド9 コアカリキュラムのフロー>

続きまして、住居学専攻のコア・カリキュラムのフローです。これは改善のほうに入ってくると思います。横（行）に各学年、縦（列）にカリキュラムフローが載っています。一番右のところは、学修をした結果の到達目標です。カリキュラムフローと到達目標を合体したようなものをつくりました。

平成 26 年度より在学中のインテリアコーディネーターの資格取得を強化するというので、コア・カリキュラムに「インテリアデザイン」を加えて実施する予定でおります。

この黄色の部分ですが、ちょっと見づらいですので、次にスライドに詳細を掲げております。

© : 評価
住居学専攻のコアカリキュラムのフロー（部分）

到達目標（何ができるようになるか）	
<p>一年次 建築計画学1 基礎製図1・2 構造力学基礎1・2 CAD演習1 インテリアデザイン論 インテリアコーディネーター 専門演習1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構造力学等を学ぶ上で必要な数学及び力学基礎力が身に付く ・設計製図を行う上で必要な図面の描き方、読み方、CADの基本操作が分かる ・設計計画を行う上で必要な基本的知識が身に付いた上で、木造軸組の住宅の構造的仕組みが理解できる ・インテリア計画の基礎知識が身に付く
<p>二年次 建築計画学2 建築法規 構造力学1 環境工学 インテリアコーディネーター 演習2 設計論 製図2・3 CAD演習1・2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な建築種別の設計計画の基本的知識、法的制約の基本的知識、建築構造に関する基本的知識、建築環境の基本的知識を理解した上で、小規模な木造及びRC造建築の計画設計ができ、それを2次元及び3次元CADで表現できる ・リフォーム手法に関する基本的知識を理解した上で、木造及びRC造建築をリフォームする設計計画ができ、それを2次元及び3次元CADで表現できる ・インテリアコーディネーター資格学科試験に合格できる知識が身に付く

<住居スライド10 コア・カリキュラムのフロー（部分）>

カリキュラムフローの部分ということで、左側に各年次のコア・カリキュラムの学び、学修した結果、何ができるようになるのかなどの到達目標を掲げております。今後、このコア・カリキュラムフローと到達目標を学修の評価、GPA 等の関連において、何か改善が加えることができるかどうかの検討をしていきたいと思っております。

◎:評価
住居学専攻の活動の評価例

■ コアカリキュラムの評価・改善及び入学前～長期休暇学修課題の評価・改善は前述のとおり

[評価－1] 就職率

平成26年度	住居学専攻	就職率	90%(平成26年1月現在)
平成25年度		就職率	100%
平成24年度		就職率	100%
過去5年間の就職率			98%

[評価－2] 資格取得実績

一級建築士			
平成26年度	4名		
平成25年度	3名		
平成24年度	7名		
二級建築士			
平成26年度	7名		
平成25年度	3名		
平成24年度	3名		
宅地建物取引主任者	1名		
インテリアコーディネーター			
平成26年度	4名(一次合格)		
平成25年度	3名		
平成24年度	4名		

参考:二級建築士 過年度合格者数

平成23年度	12名
平成22年度	8名
平成21年度	6名
平成20年度	8名
平成19年度	8名
平成18年度	16名

[評価－3] 外部顕彰

建築学会	東海支部岐阜支所主催
	卒業制作展
最優秀賞	1点
	優秀賞 2点

<住居スライド11 活動の評価例>

続きまして、住居学専攻の活動の評価についてです。見えるもので評価しました。カリキュラム評価の改善および入学前から長期休暇学修課題の評価の改善は、先に述べたとおりです。

それと、「評価－1」としまして就職率を挙げております。平成26年1月現在ですが、就職率90%になっています。平成25年、平成24年は100%でした。過去5年の就職率は98%という高い率を確保しております。

それから、「評価－2」として、資格取得の実績についてです。平成26年度は一級建築士4名、二級建築士7名、宅地建物取引主任者は残念ながら1名。それから、インテリアコーディネーターは一次合格者が4名というかたちで、着実に結果を残しております。

参考でございますが、過年度の二級建築士、これは卒業年度に資格が取れるものですから、過年度を挙げていますが、平成23年度12名、平成22年度8名、平成21年度6名、平成18年度においては16名の合格者を出しました。このように安定的に卒業時の二級建築士の取得はできているのではないかなと思います。

それから、「評価－3」としまして外部顕彰を挙げました。建築学会の東海支部岐阜支所主催の卒業制作展において、最優秀賞1点、優秀賞2点を受けております。一つの評価ではないかと思えます。

<p>④:改善 住居学専攻 活動の改善:次年度の活動事項への反映</p>
<p>[改善－1] インテリアコーディネーター資格 取得の強化を図るため現在1年次後期、2年次前期のインテリアコーディネーター専門演習Ⅰ・Ⅱに加え3年次の前期にインテリアコーディネーター専門演習Ⅲを新設する。併せて、インテリアコーディネーター専門演習をインテリア・プロダクトデザインコースの必修より専攻の必修へ変更。 (住居学のコアカリキュラムのフロー「平成27年度新入生～」参照)</p>
<p>[改善－2] CAP制(48単位/年)に関係し、各学年の履修配当科目を見直す。(一年次の履修科目等を調整する。例:日本建築史、西洋建築史を1年次後期より2年次前期などへ変更)</p>
<p>[改善－3] 平成26年度に引き続き、コアカリキュラム(評価・改善)、入学前・初年まとめ 次教育・専門教育・資格取得・長期休暇学修課題、の評価・改善、特別プロジェクト実習他、年間学修行事などをP④D④C④Aの輪を廻し継続推進する。</p>

<住居スライド12 活動の改善>

それと最後ですが、活動の改善、次年度の活動事項への反映ということで、三つほど挙げております。

「改善－1」としまして、コア・カリキュラムのフローのところでご説明しましたが、インテリアコーディネーター資格取得の強化を図るため、現在、1年次と2年次の「インテリアコーディネーター専門演習Ⅰ・Ⅱ」に、さらに3年次に「インテリアコーディネーター専門演習Ⅲ」を加えて、資格取得が推進できるような環境をつくろうかと思っています。一応、インテリアコーディネーターについては、インテリアコースの方の必修ですが、全体の必修にあげることを考えています。

それから、「改善－2」です。先ほども出ていましたCAP制。年48単位ということに関係し、各学年の履修配当科目を見直すということで、例えば、今、1年生が54単位を取得しています。それを48単位に近づけるために、「日本建築史」「西洋建築史」等を1年次後期から2年次前期に移すなど、各学年に影響しますが、CAP制に

関連して履修配当を見直す予定をしています。

それから、「改善-3」としまして、まとめですが、平成26年度に引き続き、コア・カリキュラムの評価・改善。入学前・初年次・専門教育・資格取得・長期休暇中学修課題の評価・改善、それに加えて特徴ある教育ということで、特別プロジェクト実習他、年間行事などをPDCAの輪を回し、継続推進することを考えております。

以上で住居学専攻の報告を終わります。ありがとうございました。

○司会 続きます、「生活科学専攻の学修状況」について、生活科学専攻主任の三輪より報告させていただきます。